



# JAL不当解雇撤回ニュース

No638号 2021.07.22  
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局  
連絡先: 航空労組連絡会事務局  
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4  
フェニックスビル内  
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819  
<http://www.jalkaikotekkai.com>

## 女性団体がオリパラ組織委員会に要請！ 508通のアピール賛同署名を提出



7月2日、婦人団体連合会は、JAL 争議の解決に向けて、オリンピック・パラリンピック組織委員会との面談を行いました。緊急事態宣言による2度の延期でようやく実現しました。オリパラスポンサーであるJALが解雇争議を抱えたままであり、ジェンダー平等の観点からも、早期解決に向けて力を貸して頂くよう申し入れました。要請には柴田婦団連会長、長尾弁護士、内田客乗原告団長が出席し、組織委員会側は持続可能性部荒田部長と日比野氏が対応しました。要請に合わせて JAL 不当解雇撤回争議団は、オリパラ組織委員会前でアピールを行い、原告一人ひとりから10年を経ても争議が解決してしない今の思いを訴えました。

**柴田婦団連会長** 女性団体として客室乗務員の皆さんを支援してきた。オリンピック憲章では差別を許さないことが第一義。JALはオフィシャルパートナーであり、ジェンダー差別をしたままで良いのか。オリンピックを契機に解決できればと思う。JALに働きかけてほしい。

**内田客乗原告団長** 長年誇りを持って仕事を続けてきた。組合は無給でも良いと伝えたが、拒否され大晦日に解雇された。その後採用が再開されたが、被解雇者の優先雇用がされないまま現在まで6200名が採用された。ILOは組織委員会とパートナーシップを締結している。ILOは10年間解決するよう勧告を出し続けてきた。争議解決はILOの励みにもなり、JALのアピールにもなる。各々が綴ったパンフレットを橋本会長にお渡し頂きたい。

**長尾弁護士** 解雇に至る過程で管財人が不当で違法な支配介入をして解雇したことは認定され、最高裁で確定している。組織委員会からもどうなっているのかと一言聞いて頂くだけでも違うので是非お願いしたい。

### 組織委員会持続可能性部部長 荒田氏

橋本会長も大会時だけのジェンダー平等ではなく社会も世界も注目して貰い、大会をきっかけに大きなムーブメントが起きてきたと言えるようにしたいと思っている。  
お話を伺い、仕事に誇りを持ち続け、退職後もずっと仕事に愛着を持っている気持ちが伝わってきた。今日のことはJALにも事前に伝えているし、伺った話も伝える。パンフレットも橋本会長に必ず渡す。

### 宣伝行動でMIC議長が挨拶！

国民支援共闘の共同代表である吉永磨美 MIC議長は、連帯の挨拶で「オフィシャルパートナーであるJALが、ジェンダー不平等に端を発した解雇問題を10年過ぎても抱えている。組織委員会の方々には、この実態を知って頂き、オフィシャルパートナーとして相応しくない事を伝えて頂きたい」と述べました。

## ～解雇されてから 11 年目の今！～ 原告が思いを訴えました



- 私達は女性差別・組合差別の中で仕事に励んできた。この女性達が 2010 年の解雇でターゲットになった。当時会社は「贅肉を取りたい。若返りをはかりたい」と言って解雇をした。組織委員会の皆様には、早期に解雇争議を解決するよう JAL を指導して頂きたい。
- 165 名が不当に解雇された。10 年たっても納得できず闘っている。組合差別、女性差別に加えて、年齢差別で解雇された。公式スポンサーでありながら調達コードに違反している JAL に争議解決を指導してほしい。

- 様々な差別を受けながら、制度を獲得してきた。若い人に伝えるために頑張っている。
- 客室乗務員は長年の女性差別の中で、年齢制限を撤廃し、結婚しても子どもを持っても乗務が続けられるなど女性の権利を勝ち取ってきた。築き上げてきた権利をこれからも続けられるように訴えていきたい。
- 今だにあの解雇は何だったのか納得いかない。女性が仕事をするのがどれほど大変か。家族の力を借り、守り続けた仕事。こんな大切な仕事をあと 3 年 7 ヶ月すら働かせて貰えなかった。突然の解雇、許せない。
- モノを言う労働者・女性たちの排除、ジェンダー差別が根強く残っている。ジェンダー平等の国際的に恥かしくない企業となるようモノを言い続けて行く。11 年経っても怒りは消えない。
- 何も悪いことはしていない。会社が大変だったときも貢献してきた者ばかり。年齢や病気で差別されて解雇は納得できない。定年までたった 1 年。その後の人生が狂わされた。

- 解雇は生活の糧の手段を奪うだけでなく、生きがいや喜びや誇りを多くを奪い去っていくもの。165 名とその家族を巻き込んだ 10 年。企業に対して人に優しくあってほしいと願うのは無駄な事なのか。
- JAL は今までに事故で 730 名を超える命を失っている。安全というものにモノを言わざるを得なかった。声をあげることの大切さを感じる。公式スポンサーがこうした争議を抱えているのは理念に反する。



- JAL は解雇後 6200 人以上の CA を採用している。国際労働基準では、経営が元に戻ったら解雇した人を最優先で職場に戻す事が決められているのに守っていない。世界の JAL が恥かしい事をしてはいけない。
- 女性軽視の中で頑張ってきた。残念ながら今も続いている。早く職場に戻り、若い人と一緒に女性の地位を向上するために頑張っていきたい。
- 年齢や病歴で解雇することは人権侵害。ILO から勧告が出ているのに正面から向き合おうとしない。正しいことが通る JAL であってほしい。
- 株主総会の経営陣の発言からは争議を解決する姿勢は見られなかった。第 3 者の助けがなければ正常な判断が出来ない。憲法 28 条違反と最高裁から断罪されている解雇。力を貸して頂きたい。
- 定年まで働き続けられると頑張ってきたが、53 才以上という年齢で解雇された。納得できず訴えてきた。



- JAL のホームページには、女性が輝ける職場とあるが年齢を理由に解雇された。差別はあってはならない。
- 労働組合と仲間の頑張りでも 60 才まで働ける制度ができたが、私は理不尽な解雇でそれが叶わなかった。
- 国際基準の遵守、差別や人権侵害のない社会を目指す ILO と組織委員会。解雇争議を抱えている JAL が公式スポンサーに相応しいかが問われている。私達の気持ちを JAL に進言して頂き解決につなげていきたい。